

青少年もがみ

第39号 令和6年2月1日

-発行-
最上地区青少年育成連絡協議会

高校生ボランティアサークル「ふなっ子」のほほえみ保育園訪問ボランティア（舟形町）

青少年の健全育成活動

最上町青少年育成町民会議会長 菅 孝



30年以上青少年の健全育成に携わってきて、あいさつ運動や防犯パトロール・列車内指導など、様々な活動を先輩方や地域の方々・友達・同僚とともにやってきました。

以前は、タバコや酒などの不良行為を防止する活動や有害図書の取締りなど、目に見える直観的な見回りが多かったように思われます。

一方、近年の子どもたちは、素行や外見では以前のような直観的に目に留まるものはありません。多感的な成長期の子どもたちは、多種多様なインターネットツールで瞬時に知りたい情報を手に入れられます。どんな成長を遂げていくのか想像もつきません。ただ、大切なことは子どもたちを優しく見つめる、地域や社会全体での見守りだと思います。

見守りは、目に見えなくとも大切な空気のようなものだと思います。子どもたちが、未来の地域の担い手となるように、今後ともあいさつ運動と見守りを続けていきたいと思います。

各地域における青少年育成事業・青少年の活動の様子

新庄市



「住みよさ」をかたちに 新庄市

金山町



四季 奏でるまち 金山

新庄市青少年育成市民会議の活動

○新庄市と高萩市の児童交流事業

新庄市では、友好都市である茨城県高萩市と児童交流を行っています。7月に新庄市の小学5・6年生が高萩市を訪問して歴史文化を学んだ後、高萩市児童と高萩まつりに参加することもできました。8月には高萩市の小学5・6年生が新庄市を訪れ、戸沢家墓所や戸沢神社の見学等を通じて、歴史を学ぶとともに新庄市児童との交流も行いました。

○チャレンジ体験パーク

子どもたちが楽しいと感じる活動を通して豊かな心が育まれ主体的な学びの機会となるよう、小学生を対象とした体験事業を実施しました。今年度は、阿部推進員から水田をお借りして、稻刈り体験を実施し、収穫したお米についての理解を深めるため、4種類のお米を食べ比べる体験活動を行いました。普段の生活では、触れる機会の少ない稻に触れたり、お米を食べ比べたりする体験は、子どもたちにとって新鮮な経験となりました。いずれの活動も継続性をもった取組み・実施を意識し、少年・青少年・成人と地域を支える人材育成に努めています。



最上町

人が元気 地域が元気 産業が元気
『キラリ輝く田園空間博物館の創造』

最上町の青少年健全育成活動について

最上町の青少年健全育成活動団体の主な活動内容は、あいさつ運動、青少年健全育成合同防犯パトロール、児童・生徒への標語、絵手紙募集などです。

あいさつ運動は、毎月第3水曜日に実施しており、偶数月は、中学・高校生の下校時に最上駅であいさつ運動を行っています。奇数月は、高校生の登校時に合わせて町内各駅で「いじめ防止」の標語チラシ入りのポケットティッシュを配布し、啓発運動も併せて行っています。

パトロールは、中学校PTA役員、防犯協会とともに、GW期間中や町内の祭りに合わせて実施しました。

標語・絵手紙コンクールについては、今年度も多数の応募がありました。標語については、いじめ防止や友達、親、地域の方々への感謝をテーマに実施し、絵手紙については、「思い出」をテーマに実施しました。これらの事業を通して、いじめや日頃の感謝などを考えるきっかけになってほしいと考えます。

舟形町



縄文の女神と若鮎の里

舟形町の青少年育成活動について

令和5年度は、コロナが5類に引き下げられ、コロナ以前の青少年健全育成に関する取組みを少しずつではありますが、実施することができました。

舟形町では、各町内会で地域の青少年と一緒に花苗を植える「花いっぱい運動」を取り組んでいます。この活動は、地域の環境美化のほかに、青少年と地域を繋ぐ大事な役割を担っている活動です。各地域の子どもたちが植えた花苗を、地域の方々で協力して水やりや草むしりを行いながら地域全体で育てています。その活動を支援するため、毎年花の咲き具合や管理状況等を審査し、優秀な町内会の表彰や町の広報誌等でも、取組みを紹介しています。また、高校生ボランティアサークル「ふなっ子」の活動は、昨年度は実施できなかった保育園訪問を実施することができました。会員たちは、子どもたちと直接触れ合うことができ、大変良い経験ができたと感想を述べていました。

この結果を受け、『非行や問題行動が目に見える形で表れていない』、『子どもたちが比較的安全に過ごせている』ことが分かりました。その一方、スマートフォンやタブレット等を利用したSNS上での、いわゆる『目に見えない形でのトラブル』が新たな懸念となっています。

今後も大人の目による巡回指導は継続していく、親子対象のSNSトラブル防止等の研修会等の開催など、青少年が明るく健全に育つ環境づくりを行っていきたいと思います。

各地域における青少年育成事業・青少年の活動の様子

真室川町



生きがいを感じ 幸せを感じるまち 真室川

真室川町青少年育成町民会議の活動

6月4日（日）、日頃から中高校生が利用する駅の環境整備を目的に、町内4か所の駅において「4駅クリーン作戦」を実施しました。地域住民や各種団体に広く呼びかけを行い、今年度は、青少年育成推進員やスポーツ少年団、婦人会、防犯協会など総勢106名の参加があり、駅舎や跨線橋、駅周辺の清掃を行いました。

8月17日（木）開催の真室川まつりの日には、「夜間パトロール」を、夏休み明けの8月から11月までの期間には、4駅にて月2回、早朝の始発時に街頭指導を実施し、近年は青少年による目立った行動を見るもなく、高校生に声をかけると、笑顔で応えてくれます。

12月17日（日）には、町内在住の高校生と青少年育成推進員との「わが町トーク」を開催し、高校生自身の将来のことなどフリートークで楽しみ、穏やかで有意義な時間を過ごしました。

時代を担う青少年の健やかな成長と環境改善を目指して、青少年育成推進員ほか関係団体の協力のもと、今後も活動を展開していきたいと考えています。



大蔵村



おかえり、なりわい灯す きよらなる里

雪に負けない子どもたち



おおくら雪山塾は、青少年育成推進員が主体となり、冬の時期に大蔵村の豊富な雪をいかし、子どもたちに存分に雪と触れ合ってもらう事を目的として開催しました。ス

ノートレッキングで大蔵村の清水城跡を巡り歴史を学習した後、班に分かれてイグルー（かまくら）作りを実施しました。あいにくの吹雪でしたが、子どもたちは寒さに負けず重い雪のブロックを持ち上げ、直径約2mのイグルーを見事に完成させました。イグルーの中でお昼ご飯を食べた子どもたちは「あったかい！」「広くてびっくり！」と驚きの声が聞こえてきました。その後は、小学生と大人が一緒に雪合戦大会の開催です。大人も童心に帰り、たくさんの笑顔と笑い声が響く有意義な事業となりました。大蔵村では、子どもたちが郷土に愛着を持ち、健やかにのびのびと成長する環境づくりに努めています。今後も、青少年の夢や希望を育むことができるような青少年育成事業を展開してまいります。

戸沢村



豊かな自然に四季のかおりと 舟唄のこだまする村

戸沢村の活動状況について

コロナ禍では、多くの事業が規模の縮小や中止せざるを得ない状況で、戸沢村での青少年健全育成事業も同様で、感染予防対策をしつつ、開催してきました。

今年度は、本格的な再スタートの年でしたが、戸沢村青少年育成事業の一つとして、数年前までは10地区で開催していた通学合宿事業は、今年度は2地区となっており、通学や宿泊を伴わない形での開催となりました。実行委員会メンバーや保護者、参加する児童の減少などに加え、特徴的だった「もらい湯」や寝食を共にすることに対する不安があり、慎重になっていることも要因となっています。これからは、事業の意義を再認識し、状況に合った共育事業を検討していく必要と考えています。また、神奈川県中井町との児童交流事業や青少年健全育成村民フォーラムなども行いました。村民フォーラムでは、タレントのミッチャーチェン氏を迎えて講演をしていただき、後半は、モルックやボッチャの体験ワークショップを参加者全員で行いました。子どもから高齢者まで、幅広い年代の参加があり、笑顔があふれています。



私の宝物（青少年育成推進員の活動及び所感）**高萩市児童交流**

新庄市青少年育成推進員 森 富喜子

高萩市との交流や田植え、稻刈り、教育の日の「だがしや楽校」など、普通に行っていたことがコロナ禍により何も行えなくなりました。今年は、4年ぶりに高萩市児童交流を再開することができ、喜びもひとしおでした。その中で、ようやく根付き始めた中学生・高校生ボランティアの参加が途絶えないか、児童の参加はあるのかなど不安もよぎりましたが、5年生で参加した児童は、「来年も参加します。」6年生児童は、「今度はボランティアで参加します。」と頼もしく、嬉しい言葉を残してくれました。

高萩市児童交流事業は、中学生・高校生が模範となってくれる今後も継続していきたい事業だと感じています。しかし、ここまで定着するには、行政の方々の関わりなくしてはできません。高校生が活躍する場の提供や居場所づくりなど、細部にわたりフォローしていただき、とても感謝しています。児童の笑顔や「楽しい」という言葉、体験することで感動する気持ち、純粋な中高生と話したり触れ合えたりすることも推進員としての喜びです。このような一つ一つの活動や継続性を持った取組みが、これから地域と関わり支え合う人材を育成することにつながっていくのではないかと思っています。

**私たちの宝物を守っていく**

金山町青少年育成推進員 栗田 真弓

金山町に嫁いで早や16年。子育てを通して、子どもたちが宝物と、日々感じております。

長女が小学校入学と同時に、中田小学校が統合されました。更に、2年前には町内の2つの小学校が統合され、現在は1校になりました。町全体で数少ない宝物を守っていく事は、とても大切な事です。

私は、あいさつ運動でバスに乗る一人一人に声を掛けます。数少ないからこそ名前と顔が一致します。ここ数年、コロナ禍にあって学校行事、地区行事等で子どもたちとふれあう機会も少なくなり、今も完全には戻っていないような気がします。子どもたちの立場からも、親以外の大人、地域の方々と接する機会が激減しており、コミュニケーション不足に不安を感じるところです。人の繋がりは、子どもたちの成長に大きく係る事だと思います。物事を始める時は、必ずあいさつから始まります。あいさつ運動で大きな声で返ってくると嬉しくなりますし、お互いに気分が良くなるものです。

子どもたちが少なくなったからこそ、一人一人に目を配れる利点を生かし、青少年育成推進員として、いろいろな角度をから、私たちの将来の宝物である子どもたちを見守っていかなければと考えています。

**私の宝物**

最上町青少年育成推進員 柴崎 郁恵

このごろの現代社会のめまぐるしい変化により、子どもたちの生活や環境、または青少年育成活動におきましても、何年もの間制限せざる得ない状況が続いております。

そのことより、今まで当たり前にできていたことが困難になり、入学式や卒業式といった大事な子どもたちの思い出となる行事さえも、普通に実施することができない状況は、胸が締め付けられる思いです。

このような毎の中でも、私が子どもの頃からずつと変わらない風景があります。私の家は、個人商店を営んでいます。ちょうど、小学校、中学校、高校の3校の子どもたちが登下校にする場所にあります。私が子どもの頃は何もありませんでしたが、今の子どもたちは熊鈴を鳴らしながら毎日「おはようございます。」「さようなら。」と元気いっぱいの姿だけは、ずっと変わらずある毎日の風景です。

子どもたちとともに、地域のみなさんも元気になります。学校、PTA、地域、子どもがつながる事で笑顔あふれる町づくりになると信じています。これからも子どもたちを見守りながら、青少年健全育成活動を続けていきたいと思います。

私の宝物（青少年育成推進員の活動及び所感）**活動を通じての思い**

真室川町青少年育成推進員 沼澤 慈

私が青少年育成推進員の活動に関わり、14年が経ちました。その間、自分の子どもたちはひとりまたひとりと巣立っていましたが、縁あって子どもたちに接する職を得ることができ、常に若い世代の情報や考えに触れている感じです。

真室川町では以前「中高生との懇談会」や「縁日」を行い、お互いの交流の機会となっていました。そこで、思いがけず懐かしい顔に出会えたりすることがあり、まさに活動していてよかったです。

近年は、コロナ禍の影響で行事をすることが叶わないことも多々ありました。今年度は“集まれ！わが町の高校生！わが町トーク「ふるさとをプロデュース～君の声が聴きたい～”を開催することができました。高校生は少人数の参加でしたが、真室川町の高校生の現状・今思っていること・将来のこと等、貴重な意見を聞くことができました。“地域に残る”ということにも「前向き・未来がある」と考えていてくれている高校生にエールを送り続けたいと思える時間でした。

今後も、このような宝たちがひとりでも多く地元に残る・帰って来たいと思える地域にするための活動に参加していくことを思っています。

**私の宝物**

鮎川村青少年育成推進員 高嶋 光一

今年度は、鮎川村青少年育成推進員会代表の大役で、山形県青少年健全育成県民大会や鮎川村内巡回指導などの活動を行ってきました。12月に行われた最上地区青少年育成懇談会では、高校生が考えている生の声が聞くことができ、とても有意義な事業だと改めて感じました。また、鮎川村教育委員会で主催している小学生対象の放課後子ども教室『わく²どき²スクール』において、安全管理員としても活動しています。スポーツや実験、工作など様々な企画を行い、子どもたちの居場所づくりと創意工夫の場の提供がされています。参加している子どもたちの可能性に毎回驚き、感心させられて、私自身も楽しく活動しています。

そんな中、「私の子どもだったらどうするだろう？」「どう考えるだろう？」「親として、どういうアドバイスや声をかけばいいだろう？」と思うことがあります。すぐに正解を教えないけど、それでは考える力がつかないし、わからないままだとだらけていてイヤになってしまふのではないかと考えてしまい、自分の声がけスキルの未熟さを痛感してしまいます。

推進員として、そして親として、まだまだ子どもたちと真剣に向き合って、共に成長していくかながらと思っています。

**皆の宝物**

大蔵村青少年育成推進員 早坂 竹千代

7月29日の暑い日に、「まだですか？」「もう少し、頑張れ。」と励まし合いながらの志賀山登山から始まった今年の「おおくら葉山塾」。見晴台へ到着し、爽やかな空気を胸いっぱい吸ったのは小学5・6年生の20人、大学生ボランティア5人、私たち青少年育成推進員と事務局10人の総勢35人です。下山時には大分元気を取り戻し、声も大きくなった子どもたち。賑やかな子どもたちの話し声を聞く度に、これが私たちの「皆の宝物」だと強く感じたところです。ベースキャンプで準備していたスタッフと合流し、昼食はバーベキューを開催しました。「おかわり！」の声が飛び交う賑やかな食事の時間を過ごしました。食後、子どもたちは水着に着替えて、祓川に飛び込んで元気に水遊び。昔は川で遊ぶのが子どもたちの夏休みでしたが、今の子どもたちは川遊びどころか、川のそばに近寄る事も止められています。

今回の葉山塾では、子どもたちがのびのびと川で泳いだり、潜ったりして光り輝いていました。隣では、大学生ボランティアの若者たちも負けず劣らずのしゃぎぶり、推進員も同様です。子どもも、青年も大人も一緒になれて楽しめたことは何よりの宝物です。

皆がそう感じた楽しい一日でした。

**一期一会**

戸沢村青少年育成推進員 山崎 里美

「青少年育成推進員やってもらわんねが～、任期は2年だから。」と誘われ、気がつけば早や11年が過ぎています。私は以前から、本の読み聞かせサークルに所属していて、子どもたちや学校等への出入など多く関わさせていただいている。コロナ禍でも、活動することができました。学校も全児童がバス通学になり、地域で子どもの姿を見かける機会が少なくなってきた中で、定期的に顔を合わせ、成長を見る事ができて嬉しく思っています。

私は『一期一会』を大切にしています。人に対して物・コト・体験に対してもです。研修会等に参加する機会が多くある中で、出会う人たちや考え方に対する“気づき”や感動を感じられるからです。

少し前の話になりますが、村で実際に起きた『渡し船転覆事故』を題材に作成した紙芝居を見た児童たちが、自発的にその年の学習発表会で演じてくれた事がありました。風化させてはいけないという思いが届いたのだと、嬉しかったのを覚えています。

今後も、村の歴史の中で忘れてほしくない事柄を何かの形にして残す作業ができたらと思います。

令和5年度 主な事業の報告

令和5年度 山形県青少年育成県民大会

令和5年10月29日(日) 新庄市民プラザ

（表彰）

○青少年育成功労者

これまでの活動の功績が認められ、新庄市青少年育成推進員の京野秀明氏が受賞されました。



○優秀標語作者

“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動の優秀標語作者の表彰では、大蔵村立大蔵中学校3年の門脇里奈さんが表彰されました。

（いじめ・非行防止セミナー）



○第62回山形県少年の主張大会最優秀賞受賞者の主張

発表 演題「大切な家族」 酒田市立第一中学校 3年 富樫 蒼汰さん

○事例発表 「最上町の青少年健全育成活動について」

発表者 最上町青少年育成町民会議 会長 菅 孝氏

「最上町子育て憲章」や「標語・絵手紙コンクール」への取組みについて紹介しました。子どもたちは、地域の人とのかかわりの中で、健やかな成長を遂げていることが実感できました。



○講演 演題「青少年の心の声を聴かせていただく」～今どきの若者とのつながりを模索して～

講師 東京家政大学人文学部 教授 杉山 雅宏 氏

青少年の「こころ」を開く聴き方のポイントを、優しい口調で、分かりやすくお話ししていただきました。「あなたのことを知りたい、理解したいという純粋な気持ちで、青少年の心を聴かせていただく」という姿勢を持つことを強調されました。

令和5年度 最上地区青少年育成懇談会

令和5年12月10日(日) 新庄市民プラザ

当時は、生徒会代表と市町村ボランティアサークルの高校生、青少年育成団体代表者等44名に出席いただきました。「これから社会をたくましく生き抜いていくために」のテーマを受け、3グループに分かれて熱心な意見交換が行われました。特に、参加された高校生の意識が高く、大人の考え方や体験談に耳を傾け、これから的人生と重ね合わせて深く考える契機となったようです。後段では、地域を明るく・元気にするメッセージを以下のようにまとめ発信しました。

- つながる力で温もりある地元をのびのび前へ
- 『あれがない?』いや『これがある!!』人と人とが協力してコミュニケーションとれること
- 日常に感謝 小さな幸せを見逃さない 自分の目で見る
- 違いは魅力 あたたかいつながりを
～ささいなことにも ありがとうと言える
ささいなことでも ごめんなさいと言える
そんな気持ちをもとう～



いじめ非行をなくそうやまがた県民運動

令和5年度 最上地区標語優秀作品

最上管内の全小・中学校から、合わせて3,614点の応募がありました。選考の結果、次の作品が最優秀・優秀に選ばれました。

【最優秀】

守りたい 私の言葉で あなたの笑顔

大蔵村立大蔵中学校 3年 門脇 里奈さん

【優秀】

もちあるこう やさしい気もちと あつたかい言葉
舟形町立舟形小学校 3年 伊藤 啓杜さん

友達の たよれる一人に ぼくはなる
戸沢村立戸沢学園 4年 石塚 陵さん

考えた？ 相手の気持ちと その言葉
新庄市立八向中学校 2年 斎藤奈々音さん

令和5年度 最上地区青少年育成推進員表彰

- ・茅野 博 氏(新庄市) ・栗田裕子 氏(新庄市)
- ・菅 秀一 氏(最上町)

編集後記

お忙しい中、玉稿をいただきました皆様方に心より御礼申し上げます。また、今年度は山形県青少年健全育成県民大会が最上地区開催となり、本協議会の総力を結集して準備や運営にあたっていただき、その団結力の素晴らしさを改めて感じました。